株式会社アシックス



ストップ&ジャンプ自在。

グリップ力抜群のニューソール装備、新製品〈スカイハンドスペシャル〉

アシックスタイガーの新製品 スカイハンドスペシャル はストップ&ジャンプが自在にできるハンドボール専用シューズです。
写真の底意匠にご注目ください。複雑なトレッド(溝)をソール全面に刻み込んでいます。これは、ハンドボール特有の、多角的な動きに対応するためで、とくに拇指球下のリング状意匠はグリップ力を飛躍的に高めます。このため、選手は思うようにストッフでき、また思うようにジャンフすることができます。
●甲被はステア表革と銀付ベロアの2タイフ。●独創のカップソールは甲被を食わえ込む設計で、足ブレを防ぎます。●大型ヒールカウンターはカカトをガッチリ保持し、選手の動作能力を高めます。
●軽さ、クッション性も卓越。
ストップ&ジャンプの スカイハンドスペシャル で栄光をつかんでください。

asics TIGER®
Handball Shoes
スカイハンド スペシャル

/NEW

スカイハンド スペシャル (THH705)
●甲被はステア表革(ホワイト)、銀付ベロア(レット、ロイヤルブルー)、裏地はナイロン。●アウターソールはラバーのカップソール。●ロイヤルブルー×ホワイト、ホワイト×レッド、レット×ホワイト。●サイズ 22.5~28.0cm
標準小売価格 ¥12,000

選手諸君の奮起を！

(財)日本ハンドボール協会
副会長　荒川清美
（日体大教授・前専務理事）

今回の役員改選で副会長に推挙され、その職に就くことになりました。

十数年にわたる理事長および専務理事としての経験を生かし、より大局的な立場から、その地位を辱しめないよう努力してまいる所存ですので、よろしくご指導の程お願い申し上げます。

当面の目標は、何をおいてもロサンゼルス・オリンピック・アジア予選に勝つことです。監督、コーチのもと選手諸君の奮起を期待いたします。

そのための環境作りに我々も最大の努力をいたします。

幸い、このたび副会長が2名に増員されましたので、相携えて協会の発展に尽してまいりたいと存じます。

財政の涵養を

(財)日本ハンドボール協会
副会長　武田喜三
（大同特殊鋼(株)相談役）

このたび財団法人日本ハンドボール協会の副会長に就任しました武田喜三でございます。

当協会に関与するのは今回が初めてでありますが、ハンドボールチームをもっている会社の役員として、前副会長の林達三氏ともども協会の発展を念じておりました。

本年はオリンピックのアジア予選の年でもありますし、斯界挙げてオリンピック出場権を確保しなければなりません。

承りますれば協会の財政も決して楽ではないようですが、各方面のご協力をいただきながら、ハンドボールの普及に努め、財源の涵養を図る必要があろうと存じます。

何ぶん不慣れでございますので大方のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ロス・オリンピックに向けて

常務理事
強化部長
渡辺慶寿

日本協会を離れて久しい私に強化部長の依頼を受け、あまりにも荷が重過ぎるので躊躇しておりましたが、他の役員の皆様も多忙の中を使命感に燃えて頑張っておられるのだと自らに言い聞かせて腰をあげる決心をしました。

当面の強化の目標は、なんといってもロサンゼルス・オリンピックの出場権を獲得することです。しかし、アジアの趨勢は、日本を凌ぐものがあり、勝利を得ることは容易なことではありません。これは、ハンドボールばかりでなく、日本のスポーツ界が負う試練の場でもあります。これを乗り越え、強い日本のハンドボールチームを育成することは、私たちが愛しているハンドボールを普及させることにもなり、是非ともやらなければならない仕事です。

強化の基本は、国際的にも通用する監督、コーチおよび選手の確保が必要であることはいうまでもありません。そして、日本を代表するチームは、あくまでも日本協会を中心とする組織から選ばれた人達ですから、日本協会と現場、すなわちチームは一体となって、担当常務理事が責任をもってそれぞれの環境作りをする必要があります。あとは、現場の監督、コーチのチームワークにかかっています。女子は、井監督を中心に新体制ができ上がりつつあります。男子も、アジアの情勢は非常に厳しくなっております。日本ハンドボール界の総力を挙げて男女アジア予選を突破しなければなりません。些事にとらわれず関係者一体となってぶつかるしかありません。

トレーニングドクターは、ナショナルの強化では重要な役割をもっています。効率的な選手の身体管理、技術と結び付けた身体維持は、欠かすことのできない要因です。必要によっては、ハンドボールから離れた身体運動の実施も必要となります。11月に予定されるオリンピックアジア予選に目標を合わせ、目さきのトレーニングにこだわらない選手の身体管理を常に考える必要があり。

最終的には選手の自覚です。選手は、監督やコーチに常に管理されるような消極的なものであってはならず、監督、コーチが要求する技術や体力、気力を常に自身で作りあげていこうという積極的姿勢がなければ決してよいチーム構成はできません。ナショナルプレーヤーとしての自覚の上に立って、技術と精神力を磨かれるよう期待します。

強化日程は、前強化委員会で決定されていますが、場合によってはこれ以上の強化日程を組まなければならないでしょう。男子は7月に予定されているフランスナショナルチームとの対戦を当面の目標に定め、軌道修正をしながら11月のオリンピックアジア予選に的を絞ってまいります。女子についても残された日数を効率的に使って最大の効果を上げなければなりません。

『ハンドボール』

57年5月号(第213号)目次

男子監督は市原則之氏

女子監督ジュニアのスタッフは留任

—昭和58年度強化陣容決定—



市原則之男子監督

○41歳
○広島修道大学出身
○現在湧永製薬(株)勤務
元湧永製薬ハンドボール部監督
○昭和56年、ジャパンカップで全日本Bチームの監督を務める。



井　薫女子監督

○44歳
○中央大学出身
○現在山鹿立石電機(株)勤務
立石電機ハンドボール部監督
○昭和48年～51年まで全日本女子チーム監督を務め、モントリオール・オリンピック第5位入賞

去る4月3日の全国理事会で新年度の強化委員会の編成が強化部長以下強化担当常務に一任され、早速強化委員の人選を行なって4月10日に第1回強化委員会が開催されました。

第1回委員会において、女子ナショナルチームの監督、コーチおよび男女ジュニアナショナルチームの監督、コーチについては、せっかく本年のオリンピックや世界選手権のアジア予選に向けて発足したばかりなので、この陣容を追認する形で決定し、4月16日の常務理事会でもそのまま承認されましたが、男子ナショナルチームの監督については、昨年のアジア大会をもって一区切りとするとされ、本年1月31日の強化部総会でも後継者問題について竹野前強化部長が善処することとされていた経過を踏まえ、前監督も含め、前コーチ陣の中から、指導体系、選手管理、選手の信頼度、ムードの盛上りなどあらゆる要素を客観的に分析検討されました。

選考の対象とされた人の意向もあることなので、第1回委員会では表決することはしないで、最終決定は、渡辺強化理事とオブザーバーで出席していた大野専務理事が委員会の空気を踏まえ、候補者の意向も打診しながら決定していくという結論になりました。

そこで強化委員会の意向に添って非公式に後継者と目される人の意向を打診したが、前記4月16日の常務理事会には間に合わず、同常務理事会ではさらに強化委員会で絞ること、その強化委員会の決定が賛否僅差による場合は再度常務理事会を招集して審議するか、同委員会の決定が賛否僅差でなかったとき、事後的に常務理事全員に書面で報告して承認することが決定されました。

早速4月20日第2回の強化委員会が開催され、さらに慎重に審議した結果、出席委員の賛成相当多数で、男子ナショナル監督として市原則之氏（紹介別掲）を決定いたしました。

そこで大野専務理事が、正式に所属の湧永製薬株式会社を通じて市原氏の内諾を求めたところ、4月25日に内諾が得られたので、常務理事全員に書面による承諾を求めたところ、4月30日正午賛成が過半数に達したので、この時点で正式に市原新監督が発足しました

本場で多くのことを学ぶ

関東ジュニア西ドイツ研修遠征

特別座談会



出席者

団長	三浦　公	（関東学院高校）
総務	田中隆一	（駒沢大学高校）
男子監督	小西正寿	（小山城南高校）
女子監督	原　信雄	（藤村女子高校）
機関誌編集委員	北川勇喜	（日　体　大）
	川上整司	（中大附属高校）

「四つの目標を持って遠征に」

北川　今日は皆さんお忙しい中わざわざお集りいただいて有難うございます。先日沢山の成果をあげて帰国された関東ジュニア選抜の西ドイツ遠征について、今日ここでいろいろとお話し合いいただいて機関誌に掲載させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。まず、早速ですが三浦先生から今回の遠征の目的についてお聞かせ下さい。

三浦　今回の目的は、一つは若い子供たちに、スポーツというものを自分の人生の中でどのように取り組んでいくのかということを考えてもらいたいということ、それにスポーツを通しての人間性の向上、また古い歴史を持つ国々での生活に触れ、文化を学ぶことによってこれからの関東地区のハンドボールの振興に何らかの役に立って欲しいというようなことを考えました。

そこで、具体的に目標として四つほどかかげました。一つは、ハンドボールのトレーニング、練習方法を体得する、それから試合を通じて技術の向上を目ざす、西ドイツの青少年との親善交流、そして最後に、今回の遠征は関東地区からのバラバラの選抜チームですので団員としての自覚と団結をはかるという以上四点です。

北川　簡単に日程を御紹介いただけますか。

三浦　3月22日にJALの北回りで出発しまして、西ドイツで研修をしながら男女各6試合を行ない、帰りにロンドン、パリに寄りまして4月4日帰国というちょう

ど2週間の日程でした。
中心はドイツでの研修ですが、北ドイツに位置するハノーバーという町にそれぞれ分散して〝ホームステイ〟でお世話いただきまして、23日から31日まで過しました。

「向うの人たちの親切さに感心」

北川　田中先生、現地に入っての印象や、子供たちの様子はどうでしたか。

田中　まず言葉は大変でした。それと、感心したのは向うの人たちの私たちに対する親切さということです。今回の遠征は、先程三浦先生が話されたようにホームステイだったんですが、世話をしてくださる家庭の人たちが、私たちが滞在した8日間、自分たちの生活を投げうって世話して下さるんです。すべて私たちのスケジュールに合せた形で面倒をみてくれるんですね。

三浦　ホームスティの家庭はそれぞれ違った仕事を持ったいろいろな家庭だったんですが、皆さんよくしてくれましたね。

田中　僕らの世話になった家庭は、夫婦の寝室、子供たちの寝室、応接室、台所しかない家庭だったんですが、その夫婦の寝室を僕ら、僕と原先生だったんですが、僕らに開けてくれて御夫婦は応接室のソファーに寝るんです。

原　僕らから見ると犠牲というか、とにかく僕らのためにすべてを投げうって面倒みてくれるということで、義理やなんかで出来る接待ではないですね。本当に頭が下がります。

三浦　一つは、日本人に対して大変好意的なんですよね。それと今回私たちは単に試合に行くということではなくて研修に行くと申し入れてあったので、向うでも西ドイツハンドボール連盟の副会長のオペッツという方が窓口になってくれたんですが、このオペッツさんが昨年西ドイツの女子ナショナルチームに付いて日本に来られたんですが、横浜の港が大変印象的だったようで、私が横浜から手紙を出したということで、あの横浜からくるなら面倒みようということで引き受けてくれたようなところもあるんです。だから公式文書にはどこにも横浜なんて書いてないのに向うに行ったら横浜のチームの扱いが多かったですね。

原　プログラムにも横浜となってましたね。

「ハンドボール発祥の地ハノーバー」

三浦　それと、ハノーバーの町に日本人が30名も来たのは初めてなんだそうです。

北川　そうですね、フランクフルトとかハンブルグあたりだと日本のチームが行ったことがありますが、ハノーバーはないですからね。





三浦　ハノーバーはドイツにおけるハンドボールの発祥の地だと聞いてましたんで…。

原　11人制ハンドボールが初めて出来たところだそうです。

北川　そうですか。大変歴史的な町なんですね。

三浦　ですからハンドボールに対する関心は、年寄りも若い人も大変持ってますね。

田中　各会場とも観客が多かったですね。

原　日本ではちょっと考えられないですね。

田中　体育館の周囲はあまり人の住むような所ではないですが試合があるとどこからかゾロゾロと集ってくるんですね。

原　立派な施設を持った体育館があるんですが、その体育館がほぼ満員になりましてね。それに応援がすごいんですね。太鼓は持ってくるし、笛は鳴らすし。

三浦　向うでは、2千名に一つの割合いでスポーツパークを作らせているようです。それでその施設は全部市が金を出して作ってやるんですが、出来たあとの管理はその借りうけたクラブが全部やるということになっているようです。プールもあれば陸上競技場も、体育館もある。北川先生はよく御存知でしょうけど、あれは立派なもん

ですね。
田中　スポーツクラブにレストランがあるんですが、そこがそこの地域の社交場なんですね。
三浦　ハノーバーには、ハンドボールのチームが千五百あるんだそうです。競技人口が2万5千人いるんだそうです。西ドイツ全体ではクラブの数が5千、チーム数が5万、競技人口は72万人だそうです。
川上　すごいですね。ケタ違いです。
原　ハーフタイムなんかに5～6歳の小さな子供たちがハンドボールで遊ぶんですね。あれが、日本では見られない。つまり日本で言えば野球のようにハンドボールが皆なの中に入っていってるんですね。

「ドイツ語の歌に感激」

北川　先生方も言葉大変だったでしょうけど（笑い）。子供たちは英語、ドイツ語…。
三浦　英語ですけど、日本の生徒と向うの子供とちょうどいいですね。向うでは、1年の時にスペイン語とか、2年の時に何語とか、英語を習っている期間が少ないんですね。日本のように中学から高校まで6年間も英語を習うなんてびっくりしてましたよ。
子供たちは日常会話はそう不自由しなかったようですね。
小西　かえって子供たちの方が順応が早いですね。
原　問題はわれわれだったんですね。（笑）
田中　私たちのお世話になった所はご夫婦ともあまり英語は話せなくて、最初の2日間ぐらいはほとんど話しをしなかったですね。
原　3日目ぐらいからですね、話すようになってきたのは…
田中　パーティのあった晩からでしょう。子供たちのために3日目の晩ぐらいにディスコパーティを開いてくれたんです。そこで原先生の所の生徒さんがドイツ語で歌を歌ったんですが、それに感激して、それまではすぐに寝てたんですけど、その晩は飲もうということになって……原先生は歌ったりした……。
原　それからぐっと親しくなりましたね。
北川　向うの新聞にもこう書いてありますね。〝食事が非常に早くドイツ語で歌を歌ったのには驚いた〟ってね。
原　〝野ばら〟と〝別れ〟というのを覚えさせていったんですけど、日本の歌では〝花〟ですね。音楽の先生に出発前指導していただいて。
三浦　ドイツ語になってるかって聞いたら、わかるって……、帰る時になったら〝蛍の光〟を日本語で歌ってくれました。
北川　小西先生のホームステイの家庭はどうだったんですか。
小西　クラウディアという13歳の子供がいたんですが、この子の英語が一番わかりやすかったです。やはり英独辞典を使ってでしたけど。
三浦　小西先生の所はすごく美人の奥さんの所で。
小西　ユーゴの人らしかったですけど。御主人もハンドボールをやってる役員の方で。
北川　やっぱりビールを飲みながら話しをしたりしたんですか。
小西　そうですね。飲みながら1時～2時頃まで3日ぐらい話しましたね。

「素晴らしき経験　ホームスティ」

三浦　朝必ずスポーツクラブに集合するんですけど、そのクラブの周囲は一面麦畑なんです。その麦畑を日本の少年少女と向うの子供たちが自転車に相乗りしたりして、お互いに声をかけ合ったりしながらそれぞれ集ってくるんです。なかなかいい風景でしたよ。
北川　そうですね。それこそ感動的な光景ですね。
三浦　ホームスティについては最初大変心配したんですけど、ホームステイにしたお蔭で子供たちにとっては相当の英語の勉強になったんじゃないでしょうか。朝から晩まで全部英語でやらなければならないんで、学校の英語とは違うからね。
小西　ホームステイで暮して、その後帰りロンドン、パリでホテルに泊ったけど本当に味気なかったですね。
原　私の所は女の子の生徒ですから、最初大変心配したんです。年頃の娘たちですから、習慣も環境も違うし大変不安だったんですけど、ホームステイのお蔭でこんな素晴しい生活経験が出来たと今は感謝してます。別れる時には、向うの家族が抱き合って子供たちと別れを惜しんでくれて、見せかけじゃない、本当の人間の触れ合

西ドイツ遠征戦績

		男子	女子
	3／22（火）	成田	出発
①	3／24（木）	（ノイシュタット戦）日本 21（8―8／13―12）20 ドイツ	日本 14（9―4／5―6）10 ドイツ
②	3／25（金）	（シュプリンゲ戦）18（5―11／13―14）25	19（9―3／10―1）4
③	3／27（日）	（ベットベルゲン戦）19（9―10／10―7）17	23（12―2／11―3）5
④	3／28（月）	（ヘレンハウゼン戦）22（10―11／12―9）20	20（12―5／8―3）8
⑤	3／29（火）	（ミースブルグ戦）25（11―9／14―14）24	17（9―4／8―3）7
⑥	3／30（水）	（ハメルン戦）21（7―9／14―14）23	16（8―6／8―12）18
	3／31（金）	ハノーバー出発・ロンドン着	
	4／1（金）	ロンドン出発・パリ着	
	4／3（日）	パリ出発	
	4／4（月）	成田着	

いが出来たような気がします。

「男子はやはり
レベルは違うか……」

川上　さて遠征の成績の方ですが、男子の方はいずれも接戦ですが、こちらの練習の様子を見て相手を作ってくれたんですか。

三浦　メンバーについては、私の方で日本チームは高校に入ってハンドボールを経験した者が多く1〜2年の経験しかないものが大部分で、技術的には大変未熟だと手紙で伝えておきましたから、それに合せてくれたのかもしれません。

小西　対戦したチームは、西ドイツの州リーグには入っていなくて、西ドイツは八つの州でそれぞれリーグがあるんですけど、その州リーグではなくて下の地区リーグに所属しているチームだったようです。

三浦　男子の方はね。最終戦のハメルンは……

小西　来シーズンから州リーグに入るようですね。

川上　日本のチームは関東選抜だったんで、まあその中からかなりいい選手がこれから育っていくのだと思いますが……

三浦　今回は関東選抜と言っても必ずしもいい選手を選んだという訳ではないので……。

川上　それでもメンバーを見るとかなりいい選手が入っているようですし、そのチームが男子の場合向うのクラブチームとかなり接戦だったということで、レベルの違いがあると見ていいんでしょうか。

三浦　私は、強いチームが出て来たらそれはとても太刀討ち出来ないと思いますよ。ただ、彼らの場合、ハンドボールの練習は週1回なんです。月曜日はボートをやって、火曜日は水泳をやって、木曜日はハンドボールをやるというようにクラブのやり方がなっていますから、日本のように毎日何時間かハンドボールを練習するということではないんです。

川上　それじゃ始めた年齢の違いということでしょうか。

三浦　まあ、たとえば4歳ぐらいからハンドボールを始めて17歳ぐらいまで来た者は、相当の技術を待っています。しかし、15歳ぐらいから始めた者はまだまだで、そうした子供たちを一緒に教えるということにトレーナーは悩みを持っていたようですね。

北川　体格的に大分差がありましたか。

小西　そうですね、男子の場合一番大きかった選手が2m04cmで……。

北川　年齢は?

小西　16歳から17歳です。

「ハンドボールを
楽しませる」

川上　女子の方のレベルは、日本の高校生と向うのクラブの子供たちと比較してどうですか。

原　僕もドイツは強いと思って一試合でも勝てるだろうかという気持で行ったんですが、先程の三浦先生の話しのようにこちらに合せてくれたのかどうかわかりませんが、正直言ってそれ程レベルが高いとは思いませんでした。スピードなんかは、むしろ日本の方があるんじゃないかと思いました。ただ、体格の問題とディフェンス力、それと個人技というかプレーの粘り強さ、つかまれてもシュートに持っていくその強引さに感心しました。もう一つは、カーラさんという先程のオペッツさんの奥さんに半日指導を受けたんですけど、キーパーとディフェンスの関係なんかは、非常にハンドボールをよく知っているという感じを受けましたね。われわれは、かなり大きくならなければキーパーとフィールドプレーヤーの関係なんて教えないんですが、向うの選手たちを見ると、小さい時からそうしたことを指導されているという印象を受けましたね。

それから、自分でこう言うのは何ですが、今回の遠征で日本チームは男女とも力以上のものを出してよくやったと思います。そしてそんなに向うの子供たちと力の差はないような気はしました。最後に戦ったハメルンというチームはいいチームでしたけど……。

小西　男子の向うのトレーナーと少し話し出来たんで、何を目標に15〜16歳の子供を教えてるのかって聞いたんです。そうしたら、基本的なことだけだ。つまりトレーニングのことだけで技術的なことはそう細かいことは教えないと言ってました。

今回の遠征で、自分も感じたんですけど、このメンバーで行ってこれだけの試合がしてこれたのだから技術的にそう差はないんじゃないか……しかし、これが上に行くと大変な差になる。つまり、基本をしっかりやっている子供たちが、上に行って技術的なことを覚えたら日本は絶対勝てないなって感じました。

川上　基本というのは体力面ですね。

小西　そうですね。

川上　技術的には基本というのをどこらあたりに置いていましたか。

原　そこのあたりは私もよくわからなかったですが、ただ楽しみながらやっているなというのは強く感じましたね。日本では勝つためにというのが少し強過ぎるかもしれませんね。私もそうですけど……。

川上　そうすると、サッカーなんかでもよく言われてますが、日本は最初に技術的な基礎を教え込む。ヨーロッパではゲームから入る。そう言われますが、そんな感じを受けましたか。

原　そう言われてみますとそうじゃないかと思うんですけど、一つは小さい時からハンドボールを楽しませる、ハンドボールを通じて集団性、社会性を学ばせるというか、とにかくハンドボールを楽しんでやっていますね。

「身長の大きい者に対し
てもやれるという自信」

川上　そうですが。それから、日本の技術的に優れた面というのはどんな点でしたか。

小西　男子の場合、つなぎの速攻がよく決ったようです。向うの速攻というのはワンマン速攻で、それが出ないと後はセットオフェンスという感じですから。

原　女子の方はスピードという感じでした。素早い動きですね。それと小西先生が言われたようにつなぎの速攻もよく決まりましたね。

後、オーバーステップを大分とられましたね。日本人は足が短いのがちょこちょこ走るのが、日本ではとられないだろうと思われるのが大分オーバーステップをとら





れましたね。

三浦　肝心のところでのキャッチミスとか反則というミスが多かったですね。まあ今回のチームは出発前にほとんど練習も出来なかったですから仕方ない面もあるかもしれませんが。

男子は、第1戦で身長の大きいのにびっくりしたと思います。それで正面から行ったんじゃとてもダメだというのを彼らは彼らなりに前半戦ぐらいで感じたと思います。しかし、何とか戦って、男子は今回の遠征での一番収穫は、身長の大きい者に対しても何らコンプレックスを感ずることなくどんどんぶつかってやっていけばやれるんだという自信を得たことだと思います。

川上　男子は第1戦ドイツに00点取られてますけど、そうするとこれはロングが多かったんですか

小西　そうですね、ロングとポストが多かったですね。

川上　サイドシュートなんかはほとんどないんですか。

小西　サイドは、内側に押し込んでくるようなシュートで、サイドに回り込んで来るようなシュートはほとんどなかったですね。

田中　体力にまかせて割り込んでくるようなシュートですね。

北川　左の選手はどうでした。

小西　あまりいなかったですね。やはり少ないようです。

三浦　ハメルンは両手を使うのがいたね。

原　最終戦の相手のハメルンはかなりレベルの高いチームだった

「キーパーに　ウエイトを置いて育てる」

川上　技術的にドイツに学んだ点というのはどんなところでしょうか。男子の方から……

小西　まず私が感じたのは、ポストプレーです。ボールをもらったら何が何でもシュートに行く執念です。後、パワーですね。フリーシュートなんか打たせたらキーパーは反応出来ませんですから。

川上　その投げ方というのはどうなんです。

小西　日本流で言うと滅茶苦茶です。後、ボールが日本で使ってるのより柔らかかったですね。

北川　松ヤニは使った……

小西　使わなかったです。

三浦　この体育館では使わしてないと言ってました。

小西　ホームステイの家庭のお世話で、女子の一般の試合を見せてもらったんですが、キーパーがすごく巧かったです。向うではキーパーに置いているウエイトが非常に高いんだなと感じました。

川上　女子の方では……

原　そうですね。キーパーを非常に時間をかけて教えますね。カーラさんというコーチの方に教えてもらった時に、我々はどちらかというとディフェンスはディフェンス、攻撃は攻撃とわけて教えるところがあるんですが、カーラさんはディフェンスと攻撃を一緒になってやるんですね。ボールを回して攻撃したらすぐにディフェンスに入るというように。その点は勉強になりましたね。

後は、先程も話しましたようにハンドボールを楽しませているというの強く印象に残りました。生涯スポーツとしてハンドボールを位置づけているということですね

川上　最後に、同じく西ドイツに遠征した関東学生もいい成績、特に女子は6戦全勝という成績だったですね、そして高校の遠征の方も女子はいい成績をあげていますね。そうしますと、将来ナショナルチームは女子なら追いつけるんじゃないかとちょっと思ったんですが、どうですか。

原　そう早まった考えはまだ危険だろうと思います。しかし、今回対戦した限りでは、この年齢層ではそう開きはないだろうというのは実感として持ってきました。

ただ、先程小西先生がおっしゃてましたように、このノビノビ楽しくやっている子供たちが、将来西ドイツのトップに立つ時は素晴らしいチームになるだろうなという気はしました。

北川　今日は、本当にいい話しを沢山有難とうございました。これだけ多くの点を学び、成果をあげて来た遠征をこれからも是非機会あれば続けられればいいですね

関東、関西学生選抜西独に遠征

関東選抜女子チーム
ブンデスリーガを破り
6戦全勝の大健闘

関東と関西の男女学生選抜チームが、2月末から3月にかけて西ドイツを訪問、研修を兼ねてそれぞれ西ドイツの各チームと対戦してきた。なかでも関東選抜の女子チームは6戦全勝という素晴らしい成績をあげた。

関東学生選抜西独遠征成績

（2月26日～3月13日・男子7試合、女子6試合）

〈男子〉

関東学生選抜	28	15－10, 13－11	21	TSGミュンスター
HC・ビューディンゲン	26	9－13, 17－8	21	関東学生選抜
関東学生選抜	22	9－13, 13－9	22	SVゾイルベルグ
南西ドイツ選抜ジュニア	25	13－12, 12－8	20	関東学生選抜
関東学生選抜	24	12－8, 12－10	18	TSVフンゲン
SV・クルムシュタット	25	15－10, 10－13	23	関東学生選抜

〈女子〉

関東学生選抜	24	12－13, 12－7	20	TV・アイベルシャウゼン
関東学生選抜	27	13－4, 14－7	11	TSG・ミュンスター
関東学生選抜	21	12－0, 9－9	9	HC・ビューディンゲン
関東学生選抜	23	11－10, 12－9	19	RW・マウハパッハ
関東学生選抜	15	8－4, 7－8	12	南西ドイツ選抜ジュニア
関東学生選抜	15	8－5, 7－7	12	SV・クルムシュタット
関東学生選抜	17	10－8, 7－7	15	TV・リュッルリンデン

西独研修遠征に同行して

関東学連理事長　福地賢介

関西学生選抜遠征成績

（2月27日～3月9日・男子6試合、女子5試合）

〈男子〉

HSGハンブルグ	28	13－14, 15－8	22	関西学生選抜
MTV・ヘルツホルツ	31	16－14, 15－5	19	関西学生選抜
BW・ヴィッツトロフ	27	16－10, 11－8	18	関西学生選抜
R・オイッテン	24	11－12, 13－10	22	関西学生選抜
シュルスヴィグ06	24	12－12, 12－11	23	関西学生選抜
SG・ハンドヴィット	40	24－7, 16－9	16	関西学生選抜

〈女子〉

HSGハンブルグ	16	9－8, 7－4	12	関西学生選抜
MTV・ヘルツホルン	20	12－6, 8－11	17	関西学生選抜
ノイミュンスター	21	9－7, 12－9	16	関西学生選抜
関西学生選抜	21	13－11, 8－8	19	R・オイッテン
関西学生選抜	21	14－10, 7－8	18	SG・ハンドビット

2月26日、JL四三三便で発ち、翌27日フランクフルト空港に8時25分、関東学連の西ドイツ研修遠征チームが到着した。早いもので、この遠征はもう6回目を迎えた。

第1回目の時は「何んでも良いから吸収出来るものは……といった気が強すぎて、あれこれ吸収し過ぎといった状態で、帰ってから整理するのに苦労したので2回目からは、役員にも選手にも何にか一つで良いから自分がこれはといったものを吸収するようにといっている。

フランスフルト国際空港で、西ドイツヘッセン州ハンドボール協会関係者の出迎えを受け、その笑顔に接した時、成田―アンカレッジ―フランクフルトの長旅の疲れもいっぺんにふきとんだ気持である。

研修遠征を理解してくれ、試合そのものの対戦相手のレベルとかまた、試合のみでなく、他の面でもあれこれアレンジしてくれ、マンネリ化しないように注意し、配慮してくれている地元の人々に感謝の念がいっぱいである。

研修と名はついていても、選抜チームの遠征であり、帰国すれば勝敗云々されることは否めないが、しかし、本来は、本場のハンドボールに肌でふれ、従来のハンドボール意識に新たなものを加え、自分自身のため、チームのため、ひいては、学生界、日本のハンドボール界のために微力でも役立つようにとのことでスタートしている。

杉山先輩（NHK運動部、慶大OB）が、ハンドボールの地位を知ることが大事であると話されていたが、日本でのマイナースポーツが、ヨーロッパでは、どのような位置付けとなるのか、それを知ることによって、ひとつの起爆剤になってくれればいいと思っている。

当初からこの目的意識を持ち、研修遠征を行っているが、参加するたびに、あれこれ吸収するものが多くあり、奥行きの深さを感じている。

機中で、藤原監督（日体大OB同女子監督）、松コーチ（日大OB）、石井幸コーチ（日体大女子コーチ）などと、いろいろ話し合ってみても、それぞれの目的意識に大差ないことが理解された。

今回は、西ドイツの統一選挙と西ドイツナショナルチームが、オリンピック予選でオランダ遠征中ということで、そのテレビ中継が我々の試合時間に重なったりして、当初は、従来と異って観客動員が今一つ不足気味であったが、後半は本来の姿に戻り、活気が見られた。

スポーツシューレーという施設の中の宿泊所で、ハンドボール中心の生活を送っているが、午前中は練習（ボンマン氏、ドル氏などの講習も含まれている）、夕方から試合というスケジュールであった。


左端がカスマン氏

男子7試合（3勝3敗1分、二部リーグ、三部リーグ所属が大半、南西ドイツ選抜ジュニア一試合含む）、女子6試合6勝（ブンデスリーグのRWアウハバッハ、リュツルリンデン、南西ドイツ選抜ジュニアその他）の戦績であったが、前回まで、西ドイツのブンデスリーグの底力のために、常に2点差のカベに泣いていた女子が、遂にそのカベを突破したのが印象に残った。

これは「全員」のハンドボールの結晶といえる。男子も正直いって、このメンバーで今年はと思ったが、女子同様、全員の和で五分の星を残してくれたが、星勘定にも表わせない内容のものがあった。

試合の後、カッサン氏より毎回いろいろ忠告を受けていたが、この中で、単調なディフェンスは、オフェンスに比較し練習量が少なくなることが多々見られるが、西ドイツでは、ユーゲントといわれる少年チームの時からミッチリやるので、良い選手になればなるほどディフェンス練習を多くやるということであり、この話を聞いた時ふと昨年の春秋リーグを制覇した日大の新井田コーチの

「ディフェンス練習に時間の大半を費した」

という評を思い出した。

試合のみでなく、ドル、ボンマン両氏の特別講習、ブンデスリーグ観戦（二試合）、オリンピック予選テレビ観戦二試合、アウハバッハの加藤典代選手（日体大OG留学中）、ポーランドからの亡命したヨーラン選手の練習参加、対戦、リュツルリンデン（ブンデスリーグ）トレーナーからの選手勧誘（鈴木敬子、吉岡典子、小口智子その他数名）、日本と関係（鳴門市と姉妹都市サイン市）の深い製鐘会社リンケー社工場見学、大学街見学、古城めぐり、国際保養地リューデスハイム見学、その他諸々の経験をした。

菅学連会長の配慮で、ハンドボールの国際感覚のみでなく、他の面でもということで、帰途コペンハーゲン、パリに立寄り、社会見学をし、ハンドボール以外のものも吸収して、3月13日、モスクワ経由のJL四四六便で8時55分無事成田に到着した。

なお、私個人としてハンドボール以外で感じたことは、西ドイツ選挙で保守の勝利、革新中道の緑の党の進出、デンマークの社会福祉重点による重税、フランスの革新ミッテラン政権の影響、それに日本同様、長期というか慢性化した経済不況のための外国人労働者の就業問題などであった。



一九八三年3月21日クウェートで開催のアジアハンドボール協会常務会および理事会議事録

アジアハンドボール協会の常務会および理事会は一九八三年3月21日クウェートヒルトンで開かれた。会議はシェイク・ハヒッド・アルーアーマッド・アルサバーが議長となり次の者が出席した。

1 モード・アブル氏第一副会長
2 クシア・ラン氏第二副会長
3 シアド・アナル・ハッサン氏
理事長
4 アマイサル・A・アジール氏
会計
5 モニール・ボルノ氏理事
6 K・ワタナベ氏理事
7 ナジール・アル・ノアイミ氏
理事
8 K・アラカワ氏理事
9 A・イスタイチヤ氏事務局長

一、会議の初めに会長は参加者に歓迎の言葉をのべ、参加者の努力と関心を高く評価した。会長はどのような仕事でも最初は困難があり障害に面しなければならないものであると言った。アジアハンドボール協会は多くの困難が克服された段階に達した。この競技は初めてアジア大会種目に含まれたし、一九八二年12月ニューデリーでの第9回アジア大会でこの競技の大会が開催された。大会は非常な成功であった。アジアにおけるハンドボールは重要性を得つつある。一九八三年3月20日クウェートで開かれたアフローアジア会議で5種目の（ここ原文は five descriplines 5つの原則となっている）大会を行ない、それにハンドボールを含むという議定書が2つの大陸アジア、アフリカの間でサインされた。日本の理事会メンバー荒川氏は会長のハンドボールのための努力に感謝するとともに彼がアジアオリンピック委員会会長として選ばれたことにお祝いの言葉を述べた。

二(a)理事長は一九八二年11月20日デリーで開かれた前回の執行委員会の議事録が各国に送られ、それに対する異議はなかったことを説明し、その確認を求めた。会長は意見があれば出すことを求め、何の意見もなかったのでその議事録の確認を命じた。

(b)一九八二年11月20日デリーで開かれた理事会の議事録が各メンバーに配られ、また各メンバーから何の反対もなかったので議長により確認が命じられた。

三、次の議題は一九八三年ハンドボール（アジア）選手権大会の割当に関するものであった。この大会開催する提案は韓国からのみソウルで開催する提案が一件だけあった。この大会は一九八三年9月にソウルで開催されることが決定された。中国のクシア・ラン氏はソウルへ行くことは困難である旨表明した。しかし詳細に討論したが、他にどこも提案がないのでこの決定は明白な選択である。この討論の中で韓国、中国および台北に関しアジアに存在する全ての問題との関連が論じられた。アジアハンドボール協会は、アジア協会の大会および国際ハンドボール協会の男子、女子、ジュニアの予選についてそれら問題に直面し、可能な最善の方法で障害を越えていかねばならない。

四　IHFの男子ジュニア予選試合について討論され、エントリーのあった6カ国はAとBの2グループに分け、その勝者同士により決定戦を行なうことが決定された。Aグループには中国、日本、台北が入り、Bグループにはクウェート、サウジアラビア、アラブ首長国連邦が入る。各国にこの予選大会を開催するかどうか照会が出される。全ての試合は一九八三年8月までに終らねばならない。中国は台北が国旗、国歌、国名に関するIOC決定に従うという条件でのみ大会に参加できるということを指摘した。議長は、台北がクシアラン氏の指摘の通りIOCの指示に従って別の旗、国歌、および中国台北の名称で参加せねばならない旨宣言した。

五、国際ハンドボール協会の女子ジュニア大会予選は4つあったエントリーのうち中国と韓国はすでに出場権を持っているので問題は少ない。日本と中国台北がお互に対戦し、その勝者がアジア代表となる。試合は一九八三年5月までに完了させねばならない。

六、一九八四年ロサンゼルス・オリンピックにアジアを代表する男、女チームを選ぶために、各国にエントリーを提出するよう、また（予選）大会を開催するよう求めることが決定された。時期がすでにせまっているので4月末日までに返答をいただくよう決定された。

中国の理事はアジア選手権大会がソウルで開催され、中国はそれに参加することが困難であるので予選大会の開催について十分注意を払うよう強調した。中国は男、女両方ともオリンピックハンドボール競技を闘うことを切望している。会長はアジアハンドボール協会が当面する問題に打ち勝つため常に鋭い関心を払う旨会議に保証した。会長は加盟各国への照会の後ある解決策が見出されることになるよう望んだ。日本の荒川氏は会長の主張を支持した。

七、次のトレーニングおよびコーチ計画に関し講習会の中心となる場所を見つけることが決められ、執行委員会がその決定を行なうこととした。

この点に関し、会長はオリンピックソリダソティ資金を使うよう加盟国協会にすすめ、自国のNOC／IHFを通じ申請を提出するとともに、アジアハンドボール協会およびアジアのオリンピック理事会に通知するよう求めた。彼はアジアオリンピック理事会およびIOCのメンバーであるのでそれを援助する立場にある。

八、一九八二年会計報告、監査報告が会計よりされた。タラル・アラブ・ガザラ会社に監査された会計報告が会計ファリッド・アジール氏により会議に提出し、採択された。

九、ウガンダハンドボール協会からアジアハンドボール協会にユニフォームとボールの寄贈を求めてきた件について会議にはかられた。会長は丁重な返事を送り、将来に責任回避するよう指示した。まずアジアの国々が援助されねばならないと彼は言った。

十、閉会に先立ち、クウェート政府の首相でプリンスであるH・H・アミール氏および社会問題大臣に、アジア諸国の利益のためのアジアハンドボール協会の運営のために寛大な援助をいただいたことについて、感謝するむね記録にとどめるよう決議することが採択された。クウェートオリンピック委員会にも昨年（一九八二年）の密接な協力に感謝することとした。またクラル・アブ・ガザラ会社にその会計監査と一九八二年財政報告の提出について感謝が記録された。

国際ハンドボール協会広報第138号（一九八三年2月より抜粋）

○…一九八三年12月2日～12日フィンランドで行なわれる第4回男子ジュニア世界選手権大会の公示に対し良好な反応があった。ヨーロッパから19か国協会の参加登録があった。この行事の開催国フィンランドの他に、前回ジュニア世界選手権大会の結果から自動的な参加資格のあるのは、ユーゴスラビア、ソ連、チェコスロバキア、スウェーデン、東ドイツ、アイスランド、デンマーク、フランスである。その他にヨーロッパで行なわれる次の5つの予選試合の勝者が参加する。ベルギー対西ドイツ、ノルウェー対スウェーデン、イスラエル対スイス、オーストリア対イタリア、ポーランド対オランダ。これらの対戦は、一九八三年5月1日から6月15日の間に行なわれねばならない。

○…フランスは、本年10月13日から24日まで第4回女子ジュニア世界選手権大会を開催する。前回のカナダでの世界選手権大会の結果から、開催国フランスの他にソ連、ユーゴスラビア、西ドイツ、韓国、デンマーク、中国がこの大会に出場する資格をすでに得ている。この大会には、アフリカとアジアから各1チームが参加する。ヨーロッパからのチームは、オランダ、イタリア、東ドイツ、ノルウェー、ポーランド、ブルガリアおよびベルギー対スウェーデンの予選の勝者である。

○…オランダでの男子B世界選手権大会（一九八三年2月25日～3月6日）の結果。

	総得点	総失点
①ハンガリー	106	87
②チェコスロバキア	110	95
③西ドイツ	81	77
④スウェーデン	107	99
⑤スイス	77	114
⑥スペイン	98	107
⑦アイスランド	114	101
⑧フランス	101	94
⑨オランダ	96	95
⑩イスラエル	97	99
⑪ブルガリア	114	113
⑫ベルギー	99	119

○…テラモ（イタリア）における第11回インテラムニアカップには本年もまた何百ものチームが参加するだろう。登録は、遅くとも一九八三年5月15日までに Via Noe Lucici 51 I-64100 Tevamo のインテラムニアハンドボールに送られねばならない。大会は一九八三年7月4日～9日に行なわれる。

○…トレーナーおよびレフェリーのための教育シリーズがバーゼルの国際ハンドボール協会から得ることができる（できたら複数のオーダーを）。価格は1部30スイスフランです。これら実用的図入りシリーズ（映写機で使うこともできる）は、コーチ、トレーナー、レフェリーの訓練に適している。

○…第8回女子世界選手権大会（於：ハンガリー・ブタペスト）

▽最終順位

①ソ連
②ハンガリー
③ユーゴスラビア
④東ドイツ
⑤チェコスロバキア
⑥韓国
⑦ノルウェー
⑧ルーマニア
⑨西ドイツ
⑩ブルガリア
⑪アメリカ
⑫コンゴ

▽第1ラウンド順位

○Aグループ
①ハンガリー②東ドイツ③ノルウェー④アメリカ

○Bグループ
①ソ連②韓国③ルーマニア④ブルガリア

○Cグループ
①ユーゴスラビア②チェコスロバキア③西ドイツ④コンゴ

▽上位得点選手

①ヤスナ・メルダン（ユーゴスラビア） 52点
②ピュン・スン・ユン（韓国） 46点
③マリアンヌ・ゴドール（ハンガリー） 44点
④オク・ハ・キン（韓国） 42点
⑤クーリンカ・アン・ポランジェ（コンゴ） 39点
⑥マリマ・テレック・ベリゲアヌ（ルーマニア） 38点
⑦マトリン・クルーザー（東ドイツ） 36点
⑧ヤナ・クトコバ（チェコスロバキア） 31点
⑨タトジアナ・パベベ（ブルガリア） 30点
⑩シンシア・スティンガー（アメリカ） 29点

○…ザールブルッケンにおける

ハンドボールエキスパートの集り
(日本から光島、緒方が参加)．

一九八三年5月のＩＨＦのトレーナーおよびレフェリーのためのシンポジウムは、競技規則の解釈との関連における技術および戦術についての選手の練習という主題で全世界から１２０名のトレーナーとレフェリーが招かれて行なわれる。

西ドイツのザールブルッケンにある国立スポーツ大学が一九八三年5月18日～24日のＩＨＦ国際シンポジウムの会場となり、全世界から約百名のトップトレーナー、指導的レフェリーおよび指導者が集る。また、そこでは20名の専門家グループがおり、講義、討論、デモンストレーション試合、フィルム、ビデオによりこれからのハンドボールについて分析を行なう。そこでは、次のカップルにより取り扱われる5つの基本的テーマがある。

プレグラ/クシュタ（ポーランド）、スノジュ/ボクラジャック（ユーゴスラビア）、ムラッツ（チェコスロバキア）/ミッケルセン（デンマーク）、シュッター（スイス）/ショーベル（西ドイツ）、クンスト/ネディフ（ルーマニア）

また、指導的レフェリーとインストラクターのためのプログラムが競技規則レフェリー委員会によって作られてきた。

○…ポーランドにおける女子世界選手権大会に19カ国の参加

本年ポーランドにおいて行なわれる女子Ｂ世界選手権大会ヨーロッパグループの公示に対し予期した以上の反応があった。12の受け入れ可能数に対し19の登録がＩＨＦ事務局に届けられた。その中にはハンガリーにおける前回Ａ世界選手権大会で、メタルを獲得するのに失敗した次の6つのヨーロッパチームがある。東ドイツ、チェコスロバキア、ノルウェー、ルーマニア、西ドイツ、ブルガリア、もし開催国としてポーランドを含むならば、一九八三年5月1日から6月15日の間に行なわねばならない5予選により決めねばならない5カ国がある。そのチームの実力レベルを考慮に入れて次のグループが決められた。

① ベルギー対スウェーデン
② アイスランド対デンマーク
③ イギリス対オランダ
④ フランス－スイス－スペイン
⑤ オーストリア－イタリア－イスラエル

一九八四年のロスアンゼルスに参加する資格を得るチームの数は6に制限されている。ＩＯＣは一九八八年までとその後も女子チーム大会には8チームを認めていない。

○…中華人民共和国におけるレフェリーの教育

中華人民共和国ハンドボール協会の注意深い準備の後、公式のレフェリー講習会が中国において初めて行なうことが可能となった。ＰＲＣ（競技規則委員会）委員のカール・ワン（ノルウェー）とエリク・エリアス（スウェーデン）が教えるためのわかりやすい計画を作り、健全な基礎的トレーニングの計画をアレンジした。講習会は北京地区で行なわれた男、女の中国の選手権大会の時に行なわれ、27名の参加者と20名の傍聴者がレフェリー委員会と協会から参加した。彼等の能力と熱心さおよび大会の運営は優れていた。テストの結果18名の候補者が求められる水準に達していたことを示した。

○…トレーナーのためのハンドボール学校がローマ（イタリア）で開かれる。

十分な検討の後イタリアハンドボール協会は、イニシャティブを取ってＩＨＦ支援の下イタリアにおいて国際ハンドボール学校を設けることを決めた。その創立の目的は南ヨーロッパおよび地中海諸国にハンドボールの普及と知識の増進をはかることである。第１回講習会は、一九八三年6月20日－26日ローマに於てイタリアオリンピック委員会のスポーツ学校で開催される。そこには全ての必要な道具と装備が整えられ講習会の成功が期される。この新しい学校では「ハンドボール訓練における新しい傾向」という主題の下で講習会が行なわれる。次のエキスパートが講師として招待されている。

ブラニスラフ・ポカジャク（ユーゴスラビア）ジーグフリード・クシュタ（ポーランド）ドミンゴ・バルセナス（スペイン）ヤロスラフ・ムラッツ（チェコスロバキア）ベドリッヒ・ケーニッヒ（チェコスロバキア）および指導的イタリアのトレーナーフランセスおよびギュトエニンガー

特別の主題で生体工学のダル・モンテ教授と心理学のベンジ教授が招かれている。全ての講義は英仏、独語に同時通訳される。エントリーは一九八三年4月1日までにイタリアハンドボール協会（Covsod' I Talia 35/B, I-00198 Roma）へ送られねばならない。スポーツ学校における宿泊と食事は３５０スイスフラン（食事なし）、２級ホテル５６０スイスフラン、講習会費用１３０スイスフラン。

新規ルールによる１９８１～８２年度シーズンにおけるブンデスリーグ

●西ドイツハンドボール協会誌より

〈１９８２／No.３０〉

小西　博喜　訳

はじめに

われわれは、シーズンの初めに改正されたルールの見地から、チームと審判団の挙動についての2つの報告を公表し、（ＤＨＷ37と42／１９８１）、さらに前期の終りに引き続き報告（ＤＨＷ３／１９８２）を出したわけであるが、今回一九八一～八二年の連邦リーグの終了時にあたり、後期に関し、まずは最終的な観察及び前期と後期における比較検討にとりかかってみたい。調査の際には、すべてのブンデスリーグのゲームのゴール、反則、警告、退場、７ｍスロー とオフェンスの犯した反則（これらはレフェリーによって罰せられたものである）が記録された。その資料にもとずき分析結果を報告する。

ホイッスルの吹かれたファウル

一九八一～八二年のブンデスリーグシーズンの後期シリーズにおいて、われわれは1試合につき前期の66個に対して71個というホイッスルファウルのわずかな増加を記録した。一九八一～八二年のブンデスリーグゲームのホイッスルファウルの全体の平均は、一九八〇～八一年に比べて31・5％減少した。注目すべきことは、一九八一～八二年のファウル率は一九八〇～八一年と比べるとかなり低下しており、各チームとも新ルールを目標としてきたということである。

これは、最初の積極的な傾向としてしっかりと根を張るものということができる。

退　場

図1は、後期シリーズの各々の試合日につき、1試合ごとの退場のおおよその傾向を描いている（下の折れ線）。これによれば、既に後期シリーズでは1試合に5.6個の退場（チームにつき2.8個）が明らかにされている。退場回数は前期の終りと大体同じ高さにあり（1試合につき5.8個）、また、一九八〇～八一年のブンデスリーグのシーズンにおける概数値（1試合5.5個）と同じ程度である。シーズンの終了時には予期されたように罰則因数の下降が認められる。

これは、多分選手権の順位が決り、リーグ落ちするものがほとんど確定したからである。

これらは、新ルールの適用によって過度の退場が起るかも知れないと恐れていた新ルール実行委員の批評家らとは反対の結果をもたらすものであった。というのも、退場時間の増加（増大）は全く生じなかったからである。しかし、退場についてレフェリーは前期シリーズの時ほど徹底してはいなかったように思える。

そのことは、やや高い反則率にもかかわらず、後期シリーズにおける時間退場は後退したからである。

一九八一～八二年の全ブンデスリーグシーズンの退場（図2）についていえることは、レフェリーはシーズンのはじめ（第1～第3日）には強化されたルールの討論を通してとまどっていたし、そのために、よりたくさんの退場がいい渡されたということである。

第4～26日目からレフェリーは、1試合につき平均6つの時間退場をいい渡している。これは、新ルールにかかわらず一九八〇～八一年の選手権の平均より1試合わずか0.5の時間退場分だけ高いに過ぎない。

ファウル及び退場

図1は、後期シリーズの各試合における1試合ごとのファウルと退場の平均の数を表わしている。2つの折れ線を比較してみると、ファウルの平均値が退場の平均値と傾向を同じくしているということに気がつく。

折れ線は、17日目と21日目の間のゆらぎに至るまで全く同様に推移している。すなわち、前のゲームに比べファウル率が下降したり上昇するにつれて時間退場も下降し、また上昇している。それは、ファウル率と退場率の定常的な経過から明らかである。

ファウルと退場の間の直接の関連性は、室内ハンドボール世界選手権の後で（17日目の試合が世界選手権後の最初の試合であるが）確認される。

ここで、われわれは2つの折れ線の定常的経過を明らかにすることができる。18日目には、ファウル数並びに退場数は各々1試合につき、58・6個、3.6個という2番目に低い値にまで落ち込んでいる。そして、19日目には1試合に

85・3個のファウル数という一九八一〜八二年の選手権における絶対的な最高記録がつくられた。しかし、時間退場はそれでもなお全く平均的数値にとどまっている。ここで、数字に表われている以上に審判団はもっときびしい処置をとるべきであったと考えてよかろう。

勝者及び敗者

後期シリーズの全経過において、より多くのファウルをする（表1）チームが同時に勝者として競技場を去ったという傾向が認められる。

その結果は、ファウルの多い勝ったチームが、43対28という数字となって表われている。14日目から26日目にかけてファウル数の多いチームが43回勝者となり、1試合につき平均38・3個のファウル数を必要とした。敗者の側では、1試合につき33個のファウル数が記録された。

前期シリーズと比較してみると、ファウル数の多いチームによる勝った試合数は、40から43に、同様に1試合ごとの平均したファウル数も34個から38・3個にまで増加した。

一九八一〜八二年のブンデスリーグの全試合の観察にもとずいて、より多くのファウル数を犯した方が勝利者となるという傾向が存続しているといってよかろう。

その結果は、ファウルはよくするが試合にもよく勝つというチームについて83対58という数字が表われている。

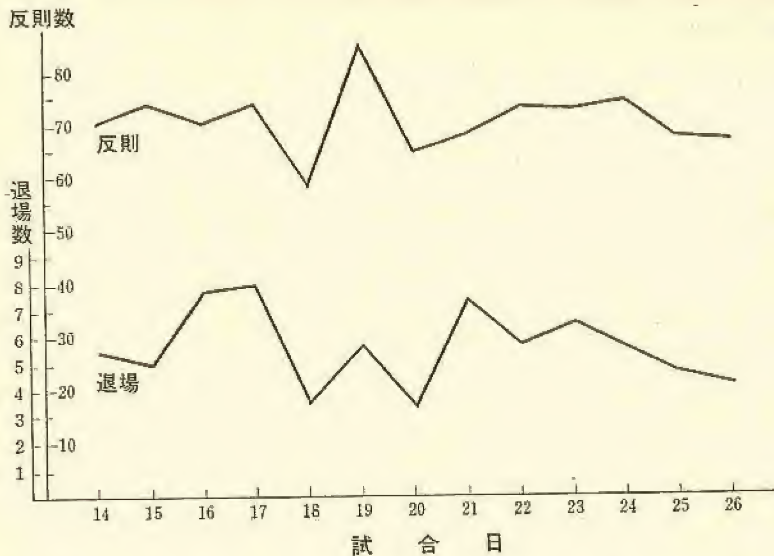


図1　後期シリーズの各試合日における1試合ごとの退場とファウルの平均回数

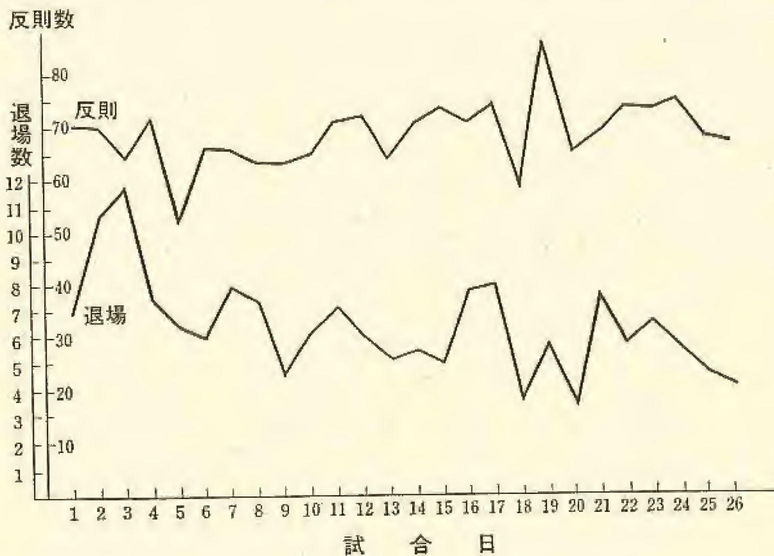


図2　1981〜82年　ブンデスリーグの各試合日における1試合ごとの退場とファウル

表1　より多くのファウルをするチームの試合，勝者，敗者に分かれている。また，前期，後期と全シリーズの3つに分けられている。（　）の中は1試合あたりの平均されたホイッスル・ファウル数である。

試　合　日	より多くのファウルを犯した方は？	
	勝　者	敗　者
1—13（前期）	40（ 34）	30（ 31）
14—26（後期）	43（38.3）	28（ 33）
1—26（全シリーズ）	83（36.2）	58（ 32）

勝者と敗者の比較

今、ホイッスルファウルと警告と退場と7mスローを勝者と敗者について比較してみると(表2)、勝ったチームは、またより多くの反則を犯していたという結論に達する。

勝者側の1試合あたり38・3個のホイッスルファウルに対し、敗者は33個である。そして、勝者は2.1個の警告、2.9個の退場、相手に与えた4.2個の7mスロー（以上1試合ごと）と、よりきびしく罰せられた。

敗者側では1試合につき2個の警告の2.8個の退場、3.9個の7mスローとなっている。

表2　1試合ごとの平均したホイッスル・ファウル，警告，退場，7mスロー（勝者，敗者別）

試合日	ホイッスル・ファウル		警告		退場		7mスロー	
	勝者	敗者	勝者	敗者	勝者	敗者	勝者	敗者
1 — 13	33.8	31.1	2.0	1.6	3.6	3.5	4.4	4.5
14 — 26	38.3	33.0	2.1	2.0	2.9	2.8	4.2	3.9
全点の平均	36.1	32.1	2.1	1.8	3.3	3.2	4.3	4.2

最初の13日間の比較において低下していた退場と7mスローを除いてすべての数字の上昇が認められる。最もはっきりしているのは、勝者のファウル率が前期シリーズにおける1試合あたり33・8個のホイッスルファウル数から38・3個に上昇したことである。

ブンデスリーグの試合を全体的に比較すると、レフェリーのファウル数が多いが、勝つチームをよりきびしく罰するということがわかる。勝者に対して平均して36・1個のホイッスルファウル2.1個の警告、3.3個の退場、4.3個の7mスローがいい渡されている。

警　告

後期シリーズにおける警告は、前期シリーズと比較して上昇はしたが、注目に値するものではない。平均して、後期シリーズの試合では各々のチームに2個の警告が与えられた（前期シリーズでは1.8個）。したがって、レフェリーは1/3程度しか彼らの警告権を使用しなかったということになる。

この結果は、すでは同じチームの1人の選手を退場させているときには、レフェリーはめったに黄色カードをつかまないという多くの関係者たちによって批判された事実を裏づける結果となった。

このように、反則の重さによるのではなく、ただすでに一度退場をいい渡したからというだけで、ファウル（退場）についての公正さを欠く判定がしばしば下される結果となるのである。

攻撃側のファウル

1日あたり1試合ごとの攻撃側が犯したファウルの数を描いた図3をみると、後期シリーズではレフェリーは24日目を除いて普通めったに攻撃側のファウルをとらないということがわかる。14日目から26日目までの折れ線は、23日目と24日目を別として前期シリーズにおける折れ線推移以下に位置している。

平均して、レフェリーは試合日の1試合あたり3.9回の攻撃側ファウルを判定したことになる。前期シリーズと比較してレフェリーは、この種類の反則を1試合あたり、2.3回も少なくとっていた。それはあたかも攻撃側が相手の変化する防禦の戦法（ディフェンス）に調子を合わせていたかのようである。レフェリーが、1試合にわずかに1～2回しか攻撃側のファウルをとらなかった。

一九八〇～八一年の選手権に比べて、一九八一～八二年のブンデスリーグシーズンでは、彼らは攻撃における1つの反則行為のために、ともかくも5.1個の攻撃を中止させたのである。

ゴール

後期シリーズにおいて、各チームは1つの選手権試合の間に平均19・9個のゴールを獲得した。それは前期シリーズに比べて0.6個多い。したがって、一九八一～八二年のブンデスリーグの全期間を通じて1チームあたりの獲得したゴールは、19・6個となる。

これに対して、一九八〇～八一

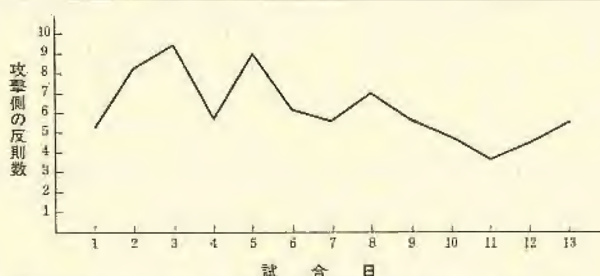


図3-A　第1日目から13日目までの1試合ごとの攻撃側の反則数

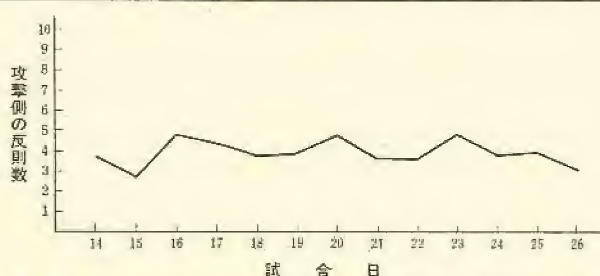


図3-B　第14日目から26日目までの1試合ごとの攻撃側の反則数

表3　1試合ごとの平均したホイッスル・ファウル，警告，退場，7mスロー（地元チーム，遠征チーム別）

試合日	ホイッスル・ファウル		警告		退場		7mスロー		攻撃側の反則	
	地元チーム	遠征チーム	地元チーム	遠征チーム	地元チーム	遠征チーム	地元チーム	遠征チーム	地元チーム	遠征チーム
1 ― 13	33.8	32.3	1.8	1.8	3.5	3.7	4.1	4.7	2.8	3.4
14 ― 26	34.5	35.8	2.0	2.1	2.5	3.2	2.0	1.9	3.6	4.2
全体の平均	34.2	34.1	1.9	2.0	3.0	3.5	3.1	3.3	3.2	3.8

年のブンデスリーグシーズンのゴール（16・9ゴール）と比べて、観客には1チームゲームあたり2.7ゴールだけ余計に提供されたことになる。

地元チームのレフェリーは？

後期シリーズにおいては、レフェリーが遠征のチームに対して平均して2.1個の警告、3.2個の退場、1.9個の7mスロー、4.2個の攻撃側ファウルを課している（表3）。一方地元のチームに対しては、ただ2個の警告、2.5個の退場、2個の7mスロー、3.6個の攻撃側ファウル（有意なファウル数差―地元34・5個に対して遠征35・8個―のもとに）をとっていた。

この数字は、よく引用される「地元レフェリーの審判現象」がハンドボールにおいてもまたあてはまるということを示すかも知れない。ファウルの笛はほとんど同じ数ではあるが、地元チームの方が明らかに多く罰せられている。この現象について、より正確な説明を表4から得ようと思うが、それはチームが地元であるか、遠征チームであるかによって、より多くのファウルをするチームが勝ったり負けたりするのがいかに頻繁であるかということを示しているのである。

表4　よくファウルを犯すチームの試合（勝者と敗者別及び地元チーム遠征チーム別）

	地元チーム	遠征チーム	合計
勝者	29	14	43
敗者	6	22	28
合計	35	36	

（注）この表では14試合が書きこまれていないが，それは全チームが引き分けに終ったか，ファウルの数が同じであったことによる

表4では、残念ながら『おらたちの審判』という傾向が再び明白である。すなわち、43試合中29試合において地元チームは相手方よりもひいきにもとずいて、より多くのファウルをした後に勝った。

それに対して、遠征してきたチームは、もし遠征の際により多くのファウルを犯すようならほとんどプラスにならない。それは、28試合のうち何んと22試合において、遠征チームが地元チームより多くのファウルを犯しながら敗者となっているのである。つまり、遠征チームがファウルを犯せば犯す程試合に勝つチャンスは少なくなる故により多くのファウルをするチームが勝つという傾向があるのではなくて、もし遠征チームがより多くのファウルをする場合には、地元チームが勝つ傾向があるという方が正しいのである。

表5　1981～82年ブンデスリーグシーズンの後期シリーズにおける地元チームと遠征チーム別の退場とホイッスル・ファウルの公式記録，全平均のあとの（　）は順位

チーム名	退場			ホイッスル・ファウル		
	全平均（順位）	地元	遠征	全平均（順位）	地元	遠征
1．VfL グンメルスバッハ	2.3（　3）	1.8	2.7	41　（13）	39	42.9
2．TV グロースバルシュタット	2.5（5.5）	1.7	3.3	35.3（7）	27.7	38.6
3．ライネフュクセベルリーン	3.7（　13）	3.7	3.7	37.3（10）	35	39.3
4．TuSEM エッセン	3.2（11.5）	2.7	3.7	37.6（11）	37.3	38
5．Tus ネッテルシュタット	3.1（9.5）	3.3	2.9	39.5（12）	40.4	38.9
6．VfL ギュンツブルグ	2.7（7.5）	2.4	3.0	32.4（3）	28.7	36.2
7．THW キール	2.7（7.5）	2.6	2.8	31.2（1）	37	25.4
8．Tus ホーフバイヤー	2.5（5.5）	2.2	2.7	31.9（2）	30	33.6
9．SG ディーツェンバッハ	3.2（11.5）	2.7	3.6	36.5（9）	40.5	31.8
10．TV ヒュッテンベルグ	1.8（　1）	1.2	2.5	32.9（5）	30	35.8
11．FA ゲッピンゲン	3.1（9.5）	3.3	2.9	33.7（6）	35.5	32.1
12．TuSPO ニュルンベルグ	4.1（　14）	3.4	4.8	41.3（14）	37.6	46.4
13．OSC ドルトムント	1.9（　2）	1.7	2.0	36.1（8）	38.1	33.2
14．バイヤーレーベルクーゼン	2.4（　4）	2.7	2.0	32.5（4）	37.6	26.7

しかしながら、地元チームがより多くファウルをすると、明らかに地元チームが勝つのも多くなるのである。

35試合中29試合は、地元チームが勝者となっている。それ故に「地の利」が選手のファウルという行為よりも強い影響力をもっているようである。

いいかえれば、地元チームはここに表わされた数字によれば、遠征チームより多くのファウルをあえて犯してもかまわないということになる。彼らは（地元チーム）レフェリーによって非常により寛大に甘く扱われていることになる。

総括で「おらたちのレフェリー現象」について述べることにしよう。

表の比較

表5、表6より詳細な非常に多くのことを比較することができよう。われわれは、2、3の重要な結論だけをあげることにしよう。

まず表5についてみると、ここでは一九八一〜八二年のブンデンリーグシーズンの後期における自分のホーム・グラウンドで行った試合と遠征試合の際の退場と、ホイッスルファウルを組み合せた公式記録の発表である。たとえば、VfLグンメルスバッハは前期シリーズと比べてかなりたくさんのファウルを犯したことが目立っている。

1試合につき39個のホイッスルファウルがあるが、これはホームグラウンドで試合を行った欄ではワースト3である。

前期シリーズでは、VfLは地元の試合で28・4個のファウルで明らかにトップに位置していたが、後期シリーズでは地元の観客を前にしてのファウル率は逆に11個のファウルが上昇したのである。

TVヒュッテンベルグとOSCドルトムントは、後期シリーズでは各々1.8個、1.9個という最も少ない退場数（1試合につき）を示し、前期シリーズの終った時点でVfLが占めていた1位の座を追い出した。

TuSPOニュルンベルグは、41・3個のホイッスルファウルを犯したが、これは後期シリーズでは最高のファウル率であった。ただし、TuSPOはまた最も多い退場を課せられた（1試合4.1個）。その上、さらにTuSPOは遠征試合においても最も高いファウル率を占めている（46・4個のファウル、4.8個の退場）。TuSPOはより多くのファウルをする（特に遠征時に）ことによってチーム順位が下がるのを阻止しようともしたのであろうか？

レフェリーがTuSPOに最もたくさんの退場を与えたことによって、新ルールはニュルンベルグの没落に加担したのである。

他にこういう問いかけもありうる。すなわち、もしニュルンベルグが彼らのディフェンスを改めたとしたら、果たして彼らはクラスの維持ができたであろうか？

次に、表6は全シーズンについてある概要をわれわれに伝えてくれるものであるが、これによるとTuSEMエッセンが最も高い退場率（1試合4個）を示しているだけでなく、ファウル率についてもそうであることがわかる（1試合37・5個のホイッスルファウル）。

VfLは、1試合ごとの退場が最も少ないチームであった（2.3個）。そしてこのシーズンを通して60個の退場がVfLグンメルスバッハにいい渡された。また、TVヒュッテンベルグは、1試合につき2.7個の退場で第2位、31・9個のホイッスルファウルで第4位に位置しており、そのために最も躾のよいディフェンスをするチームだといえる。このチームは、増加された練習の量によって防禦能率の改良を目指したのであろうか。

この理想的な出来ばえを目指して、なお、すべてのブンデスリーグのチームが一九八二〜八三年の新しいシーズンにおける各自の調整に乗り出すように望まれる次第である。

表6　1981〜82年ブンデスリーグシーズンの全シリーズにおける地元チームと遠征チーム別の退場とホイッスル・ファウルの公式記録，全平均のあとの（　）は順位

チーム名	退場			ホイッスル・ファウル		
	全平均(順位)	地元	遠征	全平均(順位)	地元	遠征
1．VfL グンメルスバッハ	2.3(1)	1.9	2.7	36(8.5)	33.7	38.5
2．TV グロースバルシュタット	2.8(3.5)	1.9	3.7	36(8.5)	33.9	37
3．ライネフュクセベルリーン	3.8(11.5)	3.5	4	37.3(12.5)	35.8	38.7
4．TuSEM エッセン	4(13.5)	3.4	4.7	37.5(14)	37.5	37.6
5．TuS ネッテルシュタット	3.8(11.5)	4.3	3.3	36.2(10)	37.5	34.8
6．VfL ギュンツブルグ	3.4(10)	3.5	3.3	30.4(1)	30.1	30.4
7．THW キール	2.9(5.5)	3.2	2.6	31.1(2)	33.3	28.9
8．Tus ホーフバイヤー	3.2(8)	2.8	3.5	31.4(3)	30.8	31.9
9．SG ディーツェンバッハ	3.3(9)	3.1	3.5	32.9(5.5)	36.2	29
10．TV ヒュッテンベルグ	2.7(2)	2.7	2.7	31.9(4)	33.8	30.9
11．FA ゲッピンゲン	3.1(7)	2.8	3.4	32.9(5.5)	33.4	31.3
12．TuSPO ニュルンベルグ	4(13.5)	3.6	4.4	36.9(11)	38.2	36.3
13．OSC ドルトムント	2.9(5.5)	2.8	3	37.3(12.5)	36.3	37.5
14．バイヤーレーベルクーゼン	2.8(3.5)	3.2	2.5	33.4(7)	36.3	30.2

総括

終りに、全体を通してわれわれの調査の最重点を述べよう。

1　ファウル率は約30％降下している。

2　1試合ごとの退場の数は、前回のシーズンの状況と同じであった。

3　攻撃側のファウルは増加した

4　より多くのファウルをする勝者チームは、またよりきびしく罰せられた。こうした非常に好ましい結果の後で、否定的な現象もまた引っぱり出してみる必要がある。

(1)　後期シリーズでは、ファウル率は前期シリーズに比べて再び増加したが、同時に退場数は後退した。

(2)　後期シリーズでは、より多くファウルをするチームが勝つという傾向がある。

(3)　遠征チームは、明らかに平均してよりきびしく反則をとられている。

(4)　ホームグラウンドチームは、遠征チームよりより大胆に振る舞ってもかまわない。

ここでわれわれは審判諸君に訴え望むのであるが、来るブンデスリーグシーズンは、一九八一〜八二年のブンデスリーグより一層よい区切りをつけようではないか。

さらに、われわれは下位のクラスにおいてできるだけ早くプラスになる現象が現われてくることを望むのである。

海外交流ニュース

ホンコン国際大会

ホンコン国際大会は、4月1日から3日まで、ホンコン市のビクトリア公園特設コートで開催された。

日本からは、本田洋監督以下12名の全日本ジュニアチームが参加したが、2勝1敗で中国に次いで第2位に終った。

●戦績

▽4月1日

中国 44−8 ホンコンA

日本 47（21−4 26−8）12 ホンコンB

▽4月2日

日本 25（14−3 11−6）9 ホンコンA

中国 46−10 ホンコンB

▽4月3日

ホンコンA 17−12 ホンコンB

中国 24（14−11 10−9）20 日本





写真：ホンコン国際大会より

第11回日韓社会人女子交流

韓国女子社会人の強豪チーム・仁川市庁を招いての第11回日韓社会人女子交流は、3月23日から29日まで、大和銀行、ジャスコ、日立栃木、日本ビクターの日本リーグ勢が対戦したが、いずれも接戦から仁川市庁が抜け出て4戦全勝を飾った。

これで対戦成績は、51戦して韓国側の26勝1分24敗となり、日本勢は一昨年以来10連敗と不振を続けている。

▽第1戦（3月23日・東淀川体育館）

仁川市庁 28（17−13 11−11）24 大和銀行

▽第2戦（3月26日・ジャスコ富田体育館）

仁川市庁 22（11−6 11−12）18 ジャスコ

▽第3戦（3月28日・日立栃木体育館）

仁川市庁 30（16−12 14−14）26 日立栃木

▽最終戦（3月29日・岩井市民体育館）

仁川市庁 24（11−10 13−7）17 日本ビクター

全日本男子ヨーロッパ遠征

昨年暮のアジア大会で中国に苦杯を喫した全日本男子は、再起を賭けて、2月15日から3月8日までヨーロッパに遠征、フランス・ナショナル・チームと2試合、西ドイツで親善試合を3試合行なった。成績は、フランスで1勝1敗、西ドイツでは1勝2敗だった。

◆フランス遠征

▽第1戦（2月17日・トロイエ）

日本 23（9−10 14−11）21 フランス

▽第2戦（2月18日・レイム）

フランス 30（15−12 15−12）24 日本

◆西ドイツ遠征

▽第1戦（2月24日・エッセン）

日本 25（11−10 14−13）23 GWダンケルセン

▽第2戦（2月25日・西ベルリン）

RF・ベルリン 27（13−6 14−15）21 日本

▽第3戦（2月28日・エッセン）

TUSEM・エッセン 28（14−13 14−8）21 日本

（前期）　第8回（昭和58年度）日本ハンドボールリーグ日程表

開催日	会場	組合せ（男子）	組合せ（女子）
第1週第1日 6月10日（金）	東京体育館	大同×湧永	
第1週第2日 6月11日（土）	岩井市総合体育館	大同×三陽	ジャスコ×ビクター
	浦和市民体育館	大崎×本田	大崎×北国
	富岡高校体育館	湧永×日新	ブラザー×日立
第1週第3日 6月12日（日）	栃木市総合体育館	本田×三陽	日立×大和
	市川市民体育館	日新×大崎	大崎×ビクター
第1週第3日 6月18日（土）	京都府立体育館	大崎×三陽	立石×大和
第2週第2日 6月19日（日）	露橋スポーツセンター	大同×大崎	立石×ブラザー
	今治市営体育館	湧永×本田	ジャスコ×北国
	徳山市体育館	日新×三陽	ビクター×日立
第3週第1日 6月25日（土）	四日市体育館	日新×本田	ジャスコ×日立
第3週第2日 6月26日（日）	神戸中央体育館	大同×日新	大崎×大和
	宗像市体育館	湧永×三陽	立石×北国
第4週第1日 7月1日（金）	大阪市中央体育館	大同×本田	ビクター×大和
第4週第2日 7月2日（土）	広島県体育館	湧永×大崎	ブラザー×北国
（後期）			
第1週第1日 9月11日（日）	小諸市総合体育館	大同×三陽	日立×北国
第1週第2日 9月14日（水）	大阪市中央体育館	湧永×大崎	ブラザー×大和
第1週第3日 9月15日（祝）	岡山県体育館	日新×本田	大崎×ブラザー
第2週第1日 9月18日（日）	京都府立体育館	湧永×本田	立石×ビクター
	生駒市総合公園体育館	大同×大崎	大崎×ジャスコ
	呉市体育館	日新×三陽	
第3週第1日 9月23日（祝）	福島市体育館	大同×日新	
	四日市体育館	大崎×本田	ジャスコ×大和
第3週第2日 9月24日（土）	岩井市総合体育館	湧永×日新	ビクター×北国
	朝霞体育館	大崎×三陽	立石×大崎
第3週第3日 9月25日（日）	栃木市総合体育館	湧永×三陽	立石×日立
	神戸中央体育館	大同×本田	ジャスコ×ブラザー
最終週 10月1日（土）	石川県体育館		大和×北国
10月2日（日）	熊本県立総合体育館	本田×三陽	立石×ジャスコ
	福井県営体育館	日新×大崎	大崎×日立
	名古屋市体育館	大同×湧永	ブラザー×ビクター

各地の記録

◇第20回山形県総合選手権（12月4、5日）

＜男子＞

○一般男子

▽1回戦

大石田高矢作会B 25－12 新庄クB

真室川ク 20－9 大石田高矢作会C

東根球友会 15－11 大石田高矢作会A

山形大 キケン 新庄クA

▽準決勝

大石田高矢作会B 17－14 真室川ク

山形大 34－18 東根球友会

▽決勝

山形大 21（13－11、8－9）20 大石田高矢作会B

○少年男子

▽1回戦

大石田高B 23－11 山形工高

大石田高A 21－9 東根工高

▽準決勝

大石田高B 24－7 新庄工高

真室川高 17－12 大石田高A

▽決勝

大石田高B 11（4－3、7－7）10 真室川高

▽男子決勝

山形大 24（14－9、10－6）15 大石田高B

＜女子＞

○一般女子

米沢女高OG会 16（8－6、8－5）11 竹桜ク

○少年女子

▽1回戦

米沢女高 11－9 日大山形高

▽決勝

竹田女高 13（3－3、10－4）7 米沢女高

▽女子決勝

米沢女高OG会 10（6－3、4－4）7 竹田女高

◇茨城県高校男子新人大会（12月10、11、12日）

▽1回戦

茨城 23－20 江戸川学園

石岡一 15－14 勝田

八郷 13－11 藤代

波崎 キケン 玉造工

土浦一 18－16 土浦工

水海道一 26－16 竹園

下館一 19－10 水戸一

牛久 15－12 勝田工

竜ケ崎一 16－15 土浦三

鉾田一 17－11 日立一

古河三 15－9 緑岡

岩井西 29－15 鹿島灘

▽2回戦

麻生 17－12 茨城

八郷 24－6 石岡一

土浦一 23－6 波崎

水海道一 23－13 太田一

岩井 28－9 下館一

竜ケ崎一 26－3 牛久

鉾田一 18－12 古河三

笠間 44－12 岩井西

▽準々決勝

八郷 19－14 麻生

水海道一 18－7 土浦一

岩井 18－10 竜ケ崎一

笠間 22－12 鉾田一

▽準決勝

水海道一 22（4－7、10－7、1－3、3－1、2－3、2－1）22 八郷 PTC 2－0

岩井 16（9－4、7－5）9 笠間

▽3位決定戦

笠間 15（7－6、8－8）14 八郷

▽決勝

水海道一 23（9－9、8－8、3－1、3－0）18 岩井

◇第22回東海室内選手権三重県予選会（1月9、30日）

＜男子＞

▽1回戦

鵜の森クB 27－15 鳥羽商船

中央ク 21－13 半田ク

尾鷲 34－33 三菱油化

鵜の森クA 25－12 鷲球会

▽2回戦

本田技研 45－6 鵜の森クB

セブンスター 39－15 尾鷲ク

三重教員 37－27 中央ク

本田爽風会 38－11 鵜の森ク

▽準決勝

本田技研 24（11－13、13－6）19 セブンスター

三重教員 27（14－11、13－8）19 本田爽風会

▽決勝

本田技研 49（23－8、26－7）15 三重教員

◇第9回茨城県一般室内選手権（1月23、30日）

▽1回戦

筑波ラバーズ 21－11 筑波会

麻生ク 21－15 土浦ク

常陽銀行 16－11 日立製作所

笠間ク 16－15 鉾田ク

日本原研 19－10 動燃東海

茨城大学 24－14 茨苑ク

筑波大学 37－8 大和ク

▽2回戦

筑波振球会 33－17 筑波ラバーズ

麻生ク 22－9 常陽銀行

笠間ク 17－16 日本原研

筑波大学 20－17 茨城大学

▽準決勝

筑波振球会 23－17 麻生ク

筑波大学 30－14 笠間ク

▽決勝

筑波振球会 25－21 筑波大学

◇全国高校選抜愛媛県予選（1月22、23日）

＜男子＞

▽1回戦

今治西 24－11 松山東

新居浜工 26－8 松山工

▽準決勝

今治西 19（11－8、8－8）16 松山西

松山北 16（5－6、11－5）11 新居浜工

▽決勝

松山北 28（13－8、15－8）16 今治西

＜女子＞

▽1回戦

大島 10－6 三崎

新居浜商 14－9 東温

▽準決勝

今治北 13（9－4、4－1）5 大島

今治南 20（8－3、12－2）5 新居浜商

▽決勝

今治北 9（3－2、3－4、1－1、0－0、1－1、1－1）9 今治南 PTC 1－0

◇千葉県高校新人大会（1月22、23日）

＜男子＞

▽1回戦

沼南 13－6 木更津

我孫子 18－8 生浜

千葉南 12－10 柏

流山中央 25－9 若松

船橋旭 16－11 松戸六実

東邦 17—17 柏南（PTC 3—0）
佐原 10—10 八千代（PTC 1—0）
佐原 23—5 京業

▽準々決勝
我孫子 23—8 沼南
流山中央 15—8 千葉南
船橋旭 19—9 東邦
市川 7—6 佐原

▽準決勝
我孫子 12（8—4、4—6）10 流山中央
市川 15（5—6、10—3）9 船橋旭

▽決勝
市川 23（10—7、13—5）12 我孫子

＜女子＞
▽1回戦
佐原 17—13 東邦
生浜 12—0 市立柏

▽準々決勝
佐原女 12—9 佐原
昭和学院 31—2 東葛飾
流山中央 14—4 明徳
和洋女 15—6 生浜

▽準決勝
昭和学院 16（5—2、11—2）4 佐原女
和洋女 8（6—4、2—3）7 流山中央

▽決勝
昭和学院 20（10—4、10—3）7 和洋女

◇第9回三重県中学選手権新人大会

（1月23、30日）

＜男子＞
▽1回戦
亀山 25—5 明和

▽2回戦
西笹川 16—8 菰野
白子 12—8 東員
西朝明 19—12 富田
亀山 12—0 南

▽準決勝
西笹川 24（10—7、14—4）11 亀山
白子 13（10—6、3—4）10 西朝明

▽決勝
西笹川 27（16—2、11—3）5 白子

＜女子＞
▽1回戦
西笹川 30—6 亀山
白子 10—6 笹川
菰野 10—10 桔梗ケ丘（PTC 2—1）
朝明 17—14 大安
西朝明 10—5 東員
明和 24—3 赤目

▽2回戦
西笹川 28—3 南
西朝明 21—4 拓植
菰野 19—2 明和
朝明 21—7 白子

▽準決勝
西笹川 26（15—4、11—1）5 朝明
菰野 16（9—3、7—0）3 西朝明

▽決勝
西笹川 20（12—2、8—1）3 菰野

◇第14回岡山県高校室内選手権

（1月29、30日）

＜男子＞
▽1回戦
津山 16—13 落合

▽2回戦
倉敷商 21—11 津山
一宮 18—6 岡山工
倉敷工 15—8 操山
総社 22—8 水工
西大寺 19—14 倉敷南
古城池 17—12 邑久
青陵 16—13 芳泉
天城 17—7 大安寺

▽準々決勝
倉敷商 16—16 一宮（PTC 7—6）
総社 13—10 倉敷工
西大寺 16—10 古城池
天城 28—14 青陵

▽準決勝
総社 23（10—10、13—7）17 倉敷商
天城 27（14—6、13—5）11 西大寺

▽3位決定戦
西大寺 28（12—11、16—11）22 倉敷商

▽決勝
天城 23（12—6、11—7）13 総社

＜女子＞
▽1回戦
一宮 12—11 操山

▽2回戦
総社 19—7 一宮
真備 15—5 大安寺
西大寺 10—7 倉敷商
天城 22—10 落合

▽準決勝
真備 15（6—8、9—4）12 総社
天城 13（8—4、5—3）7 西大寺

▽3位決定戦
西大寺 10（4—7、6—2）9 総社

▽決勝
天城 15（9—6、6—8）14 真備

◇第56回愛知県実業団リーグ戦

（1月17日～2月6日）

＜1部＞
豊田織機 39—18 豊田合成
トヨタ自動車 38—21 豊田織機
大同特殊鋼 42—14 豊田合成
トヨタ車体 28—12 豊田織機
トヨタ車体 26—14 新日鉄
トヨタ車体 26—21 トヨタ自動車
大同特殊鋼 35—13 豊田織機
豊田合成 23—17 新日鉄
豊田織機 18—13 豊田合成
トヨタ自動車 32—20 新日鉄
大同特殊鋼 37—16 トヨタ車体
豊田織機 22—22 新日鉄
大同特殊鋼 37—20 トヨタ自動車
大同特殊鋼 37—14 新日鉄
トヨタ車体 27—24 豊田合成

▽順位①大同特殊鋼（5勝）②トヨタ車体（4勝1敗）③トヨタ自動車（3勝2敗）④豊田織機（1勝3敗1分）⑤豊田合成（1勝4敗）⑥新日鉄（4敗1分）

＜二部＞
▽順位①豊田工機（5勝）②日本碍子（4勝1敗）③アイシン精機（3勝2敗）④日本電装（2勝3敗）⑤パイロットインキ（1勝4敗）⑥プラザー工業（5敗）

＜入れ替え戦＞
新日鉄 27—21 豊田工機
※新日鉄は一部残留

◇静岡県高校新人室内大会

（1月29、30、2月6日）

＜男子＞
▽1回戦
二俣 17—12 沼津東
静岡西 17—12 土肥
浜松南 21—13 静岡工
静清工 12—0 天竜林業
富士 32—18 森
伊豆中央 21—3 気賀
清水東 22—11 沼津工

▽2回戦
清水商 12—0 三島南
御殿場 20—7 二俣
浜松湖東 20—12 静岡西
御殿場南 19—13 浜松南
星陵 40—3 静清工
静岡東 21—12 富士

伊豆中央 18−12 静岡農
清水東 17−14 浜松城北工

▽準々決勝
清水商 15−12 御殿場
伊豆中央 21−20 清水東
浜松湖東 18−13 御殿場南
星陵 23−13 静岡東

▽準決勝
清水商 20（12−3、8−6）9 浜松湖東
星陵 21（11−5、10−9）14 伊豆中央

▽決勝
星陵 15（6−4、9−6）10 清水商

＜女子＞

▽1回戦
静岡農 12−0 加藤学園
気賀 12−0 吉原
土肥 16−2 清水東
清水商 16−5 浜松南
御殿場 6−2 藤枝西
富士宮東 10−8 清水西
二俣 12−0 吉原商

▽準々決勝
静岡城北 25−1 静岡農
気賀 10−7 土肥
清水商 13−6 御殿場
二俣 18−0 富士宮東

▽準決勝
静岡城北 20（10−1、10−0）1 気賀
清水商 13（7−3、6−3）6 二俣

▽決勝
静岡城北 16（7−5、9−5）10 清水商

◇第22回富山県室内選手権

（2月5、6、11、13日）

＜高校男子＞

▽1回戦
富山 14−11 新湊
伏木 16−9 高岡南
富山高専 15−8 雄山

▽2回戦
氷見 26−6 富山
二上工 20−12 富山工
高岡 16−16（PTC 4−3）大沢野工
富山商 13−8 伏木
高岡向陵 20−9 高岡商
富山中部 14−5 富山東
八尾 22−10 小杉
富山南 11−5 富山高専

▽準々決勝
氷見 23−9 二上工
富山商 19−17 高岡
高岡向陵 38−3 富山中部
八尾 18−13 富山南

▽準決勝
氷見 32（16−7、16−4）11 富山商
高岡向陵 25（10−6、15−4）10 八尾

▽決勝
高岡向陵 18（8−9、10−8）17 氷見

＜高校女子＞

▽1回戦
高岡女 13−3 高岡
高岡向陵 8−5 富山女

▽2回戦
高岡商 12−3 高岡女
富山女短付 19−4 雄山
小杉 7−4 富山北部
有磯 17−2 高岡向陵

▽準決勝
高岡商 17（10−4、7−4）8 富山女短付
有磯 23（16−1、7−1）2 小杉

▽決勝
有磯 11（5−5、6−2）7 高岡商

＜一般男子＞

▽1回戦
富山大 24−19 想球会
桜樹ク 19−18 北領会

▽2回戦
富山教員 30−14 富山大
氷見ク 23−18 八尾ク
射水ク 18−13 高商ク
氷見シニヤ 30−22 桜樹ク

▽準決勝
氷見ク 23（11−8、12−9）17 富山教員
氷見シニヤ 18（9−8、9−9）17 射水ク

▽決勝
氷見ク 25（13−4、12−8）12 氷見シニヤ

＜一般女子＞

▽1回戦
有磯OG 9−2 高女OG
向陵OG 11−8 想球会

▽決勝
有磯OG 16（7−5、9−1）6 向陵OG

◇全国高校香川県予選

（1月16、23日）

＜男子＞

▽1回戦
高松一 16−8 高松
工芸 24−14 多度津工
高松西 11−9 三本松

▽2回戦
高松南 28−13 高松一
高松商 21−4 藤井
丸亀 18−17 工芸
坂出工 30−11 高松西

▽準決勝
高松南 16（5−8、11−4）12 高松商
丸亀 9（5−6、4−2）8 坂出工

▽決勝
丸亀 16（2−0、0−0、8−5、6−9）14 高松南

＜女子＞

▽1回戦
三本松 6−5 高松西
高松一 13−6 高松東

▽準決勝
高松 15（8−3、7−1）4 三本松
高松南 9（6−4、3−3）7 高松一

▽決勝
高松 11（6−5、5−4）9 高松南

事務局からのお知らせ

昭和58年度（58年4月から59年3月）の登録の時期になりました。

各県ハンドボール協会へ御申し出の上、早目に登録をすませて下さるようお願い申し上げます。

なお、機関誌ハンドボールを御購読下さるようお願い申し上げます。発行は、7月号から59年6月号までで、1月休刊の年11回発行です。

定価三五〇円、年間三三〇〇円です。

5月の黒板

1〜3日　第24回全日本男子実業団大会（名古屋市）

14〜15日　B級公認審判テスト（大分市）

15〜19日　第4回世界女子ジュニア選手権

18〜19日　IHFトレーナー、レフェリー講習会

21日　常務理事会　14時〜

25〜27日　第24回全日本女子実業団大会（大阪市）

28日　評議員会　13時〜

29日　理事会　11時〜

編集後期

5月に入り58年度もようやく活気づき、読者の皆さまも新たな期待で胸いっぱいのことと存じます。さて、本誌では先月号の協会新役員にひきつづき今月号は男女の全日本監督を発表致しました。長い年月と多くの人々で築いたナショナルチームを、更に飛躍させる為にハンドボール関係者こぞって御声援していただきたいと願うばかりです。また、先般西ドイツハノーバーを訪れた関東高校選抜チームのスタッフを囲んでの座談会の模様を掲載致しました。異口同音、すべての面で遠征は成功だったとその成果を語ってくれました。

機関誌を尚一層充実させる為に委員会一丸となって努力をつづける所存ですが、何しろ限られた時間での仕事なので今一つ不足かと思います。その点を御理解いただき皆様の身近な出来事、技術理論等ございましたらお送り下さい。一層の御協力お願いします。（川上）

勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア

大阪市天王寺区上汐5-4-22 〒543 TEL.(06)772-2777

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一八号
昭和四十年六 七日 第三種郵便物認可
昭和五八年四月二十五日 印刷 昭和五八年五月一日 発行
都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円(年間購読料三千三百円)